

第2回「市長と話そうまち育てタウンミーティング」について（報告）

- 1 日 時 平成26年4月14日（月）午前10時30分～11時
- 2 場 所 応接室
- 3 参加者 北上ユースワーカー協議会 会長 佐藤 克英さん
同 菊池 セツ子さん
同 渡辺 富士枝さん
- 4 市出席者 市長、三宅まちづくり部長、松田教育部長
（事務局）及川広聴広報課長、同課 高橋課長補佐、石田主任
- 5 懇談テーマ（1）北上ユースワーカー協議会の成り立ちと沿革について
（2）市内のPTA活動について
（3）市内各地域の活動について
（4）「和賀江島清掃・保全活動」への参加について

6 懇談内容

（1）北上ユースワーカー協議会の成り立ちと沿革について

市長：何年くらい活動を続けているのですか。

佐藤さん：20数年になります。

渡辺さん：そもそものきっかけは、子供会活動を引っ張る小学校5・6年の子どもを持つ親が子供会の研修を受けても、子どもが卒業すると親も活動を離れるため、せつかく身に付けた指導ノウハウが受け継がれないのでこれを共有したいということでした。

佐藤さん：当初は子供会からの依頼を受けて、市内子供会世話人講習会として年1回キャンプのやり方等を教えていました。

三宅まちづくり部長：生涯学習センターの少年少女学級でも何度かお世話になったことがありますよね。

佐藤さん：そうですね。私たちの目的は子どもたちにキャンプのやり方を教えるものではなく親に指導のノウハウを教えて、子供会を引っ張ってってもらうものです。しかし、最近は地域からの要請というのは少なく、ふるさと体験館の体験指導団体という位置付けでメニューに沿った指導を行っています。

市長：現在は地区交流センターでどのような活動をしているのですか。

佐藤さん：現在はセンターで企画した内容を依頼されて、七宝焼きや竹とんぼ作りを担当しています。本当は企画の段階から携わり育成をしたいとも思います。以前は男山のキャンプ場を造るにあたって市の担当課に、炊事場を大人用と子供用の2段にしたり、あえてか



まどを作らず、自分達で炊事を考えさせる仕組みを作ったり等のアドバイスをしたことがあります。

市長：今年度で3年目になりますが、市では「北上市地域教育力向上基本計画」の中で、地域の祭りや民俗芸能の伝承を通じた地域の教育についてフォーラムを行っています。そこでこれまでの活動を通しての子どもたちの変化などお話しただけませんか。せっかくの様々なノウハウを共有できないのはもったいないと思いますし。

佐藤さん：ぜひよろしくをお願いします。

三宅まちづくり部長：では今年度実施しましょう。

(2) 市内のPTA活動について

佐藤さん：5年前から市内の子供会のリーダーの研修会が行われなくなったのはなぜでしょうか。地域の活動に移管したのですか。

三宅まちづくり部長：子どもたちへの社会教育として教育委員会が行うべき学習は現在の地区交流センターの指定管理業務の中に含まれており「少年少女学級」として市内16地区交流センターで継続して行っています。

松田教育部長：PTAには市から補助を行っています。また北上市PTA連合会へも研修を定期的に行っています。

市長：予算がないからという理由だけで補助を打ち切ることはいけません。補助金の効果を評価したうえで定期的に見直しを行っています。

(3) 市内各地域の活動について

佐藤さん：新聞に折り込まれる「週刊きたかみ」((株)河口発行)というフリーペーパーがあります。この紙面における市内16地区の行事の掲載回数を調べてみたところ、昨年1年間で、多い地区は30回近く、少ないところは10回以下となっており、大きな差に驚きました。

市長：これは地域が持つ特色と活動の性格によるものだと思います。周辺部は活動も外向けに発信するものが多いのに対し、市街中心地域は内向きの、地域の人たちに向けた行事が多くなります。これはやはり人口減少という問題がより切実かどうかということになるかと思います。周辺地域は外に発信することで交流人口や定住人口を増やしたいという思いが強いので、記事にとりあげられやすい活動が増えるのだと思います。市街中心地域も活動自体は盛んですよ。

三宅まちづくり部長：北上市地域教育力向上基本計画策定のため、地域で民俗芸能など、どのような活動をしているのかを調査したところ市内には1,000以上の活動があり、中心部も交流センターや公民館で100近くの実績がありました。メディアにとりあげ



られることと活動実績はイコールとはならないようです。

(4) 「和賀江島清掃・保全活動」への参加について

佐藤さん：17, 18年続いている事業ですが、5月に神奈川県鎌倉市で清掃・保全活動があります。長靴と軍手でゴミ拾いをするイベントですが、鎌倉市長も参加されており、鎌倉岩手県人会はこの活動がきっかけで作られています。

市長：これは大変によい活動ですね。松尾鎌倉市長は震災の際に沿岸へのボランティアに参加されました。今度鎌倉市のイベントに鬼剣舞を呼びたいというお話も聞いています。今後は「鎌倉市パートナーシティ制度」(注1)を通じてさらに交流を深まるのではないのでしょうか。

渡辺さん：初めて我々が参加した時には、我々の岩手ナンバーの自動車を見て近くに住む方がお孫さんを連れて来ました。高齢のため岩手に来るとも難しいということで、岩手のにおいに触れたかったそうです。

菊地さん：最初はゴミが沢山ありましたが、今ではすっかりきれいになりました。ゴミよりも参加者の方が多いくらいです。

佐藤さん：きっかけは鎌倉市の市章であるササリンドウ(注2)です。鬼剣舞のササリンドウの刺繍と同じなので調べたところ和賀江島を建造したのは和賀氏の祖先である和賀盛綱であったということでした。今ではそれをきっかけにして鬼剣舞などの交流が始まっています。

市長：鎌倉に行く際には、ぜひ北上マラソン大会のPRもよろしくお願いします。今年はアジアマスターズ陸上選手権もあるのでぜひ鎌倉のみなさんにも北上にいらしていただきたいですね。

(注1) 鎌倉市パートナーシティ制度・鎌倉市が定める民間団体主導型の都市交流制度で姉妹都市のような包括的なものとは異なり、歴史遺産保全や観光・産業振興など民間団体の特定分野における交流を促進するもの。

(注2) ササリンドウ・鎌倉市の市章であるササリンドウは鎌倉幕府を樹立した源頼朝の家紋と言われている。また鬼剣舞の装束には和賀氏の家紋である丸にササリンドウがデザインされている。

